

静岡県支部会報

第 26 号

日本大学通信教育部校友会

令和 4 年 11 月 10 日発行

日大通信教育部への思い

H28 年度卒業 法学部政治経済学科
廣瀬永子

私は、日本大学通信教育部に入学し、学位を取得できたことを誇りに思っています。

私の仕事は、看護師です。現在は、看護教育の分野で、日々、精進しております。私の高校時代は、大学進学が大変困難でした。中学・高校の中で成績上位の生徒でさえ、一浪、二浪することが珍しくない時代でした。当時から私は、看護師を目指し、看護学校への進学を希望していました。家族から、「看護大学へ行かなくていいのか」と聞かれました。私は、「私は看護学校だから、大学は受験しなくていい」「大学にいきたいと思わない」と言い、大学受験について全く検討しませんでした。

看護師資格を取得後、臨床経験を経て、看護教員になりました。しかし、教員として仕事をする際、何度も自分の思考や視野の狭さを痛感しました。折に触れて、私は、もう少し看護以外の分野を勉強した方がよいのではと思うようになりました。当時、家族が、たまたま仕事で通りがかった水道橋で、日大通信のパンフレットを入手しました。私は、他大学通信教育部への入学を検討しておりましたが、入手した日大通信のパンフレットをみて、すぐに日本大学通信教育部法学部政治経済学科の入学を決めました。

自分が思った以上に、通信教育部の生活は有意義でした。私は、レポート&スクリーニングの組み合わせで単位を取得しました。しかし、入学後 1 年程度は、レポート課題の書き方に悩み、退学を考えたこともありました。その際、通信教育部の担当の方から助言をいただき、何とかレポート課題に取り組めるようになりました。



スクリーニングは、様々な学習方法、教育方法を考える機会となりました。実際に、何度か日大の先生の講義方法を、自分なりに工夫して考え、看護学校での講義に取り入れたこともありました。

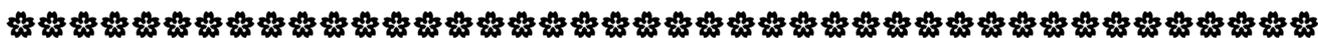
入学前、私は、学部教育を受けることで、その分野の専門が分かるようになっておりました。しかし、実際は、学問としての教養、基礎の習得だったのではないかと思います。政治学の全講義終了後、法学部図書館で“やさしい政治学”という本を見つけました。内容に抵抗なく、最後まで読むことができました。難しい内容ではありませんでした。ですが、この本を読んで分かると思えたことが、とてもうれしかったです。

学位をいただいた際、正直、あまり学位取得の実感が湧きませんでした。しかし、時間が経つにつれ、頑張った、と感じるようになりました。そして、本当は大学に行きたかった、ということに気づきました。高校時代の私は、大学受験が難しいことばかりを考えてしまい、大学へ行きたいという、自分の気持ちに正直ではありませんでした。自分の気持ちに気づけたこと、そして、念願の学士の学位を取得できて、本当に良かったと思っています。

今でも、日大通信教育部の建物の前を通る度に、在学中、頑張ったことを思い出します。もし今後、新たな分野を勉強しようと思った時には、入学しようと思っています。人生において、勉強をしたいときに、いつでも勉強できる場があると分かりました。そして、日大通信教育部に入学してよかったと心から思います。

日々、いろいろな出来事がございますが、今後の人生においても、大学で学んだことを大切にして生活していきたいと思っています。校友会の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

2022.9.18 (日) 記



雑感

平成 19 年度 文理学部卒
加藤直美

今年の 7 月初旬、知人から資格試験の受験会場までの道案内を頼まれた。受験会場は、水道橋の日本大学経済学部だという。水道橋へ行くのは約 15 年ぶりで、在学中を思い出しながら新幹線に乗った。電車を乗り換えて下車した水道橋駅の雰囲気は、当時と変わっていなかった。

改札口を出て横断歩道を渡り、東京歯科大学の前を過ぎて…と、懐かしい感じがしたのはそこまでだった。

あれ？ここには、ドラッグストアがあったはず…
マクドナルドはどこ？
ここに日大の校舎があったかな？
このコンビニは、セブンイレブンではなかったような…



記憶が曖昧で辺りをキョロキョロしながら、それでも、見覚えがある交差点の横断歩道を渡り、スマホを使わずに無事に辿りついた。この夏の日、思いがけず在学中のことを思い出し、当時の自分にひと言、言ってあげたくなった。

よくがんばりました。

2022.9.24 (土) 記



一冊の本との出会い

平成 17 年 文学部卒業 T.K



本との出会いは人生を豊かにしてくれます。私は 1999 年 6 月 11 日から 13 日までの 3 日間の神戸のスクーリングでしたが、英語 1(外国語必須)の講義で人生の出会いとしての本にたどり着きました。A 先生が担当されたそのスクーリングの中で『英語のやさしい入門の本』(古谷専三著、たち出版)を紹介してくださいました。著者の古谷先生は、日大でも教えられていたと伺いました。

この本では英語の文型・構造を分析し、どのように読解していけば良いかをイソップ童話を例文として解説しています。「古谷メソッド」と紹介されているこの構文分析を知り、私は「これだ！」

と喜びました。

当時、1806 円で購入した本も 5 年程前にインターネットで検索した時には 3 倍の値がついていました。この本の価値を知る者には値段は関係なく、何物にも替え難い宝物です。

A 先生には卒業論文の指導もしていただきました。卒業論文の指導とともに素晴らしい本との出会いをさせてくださった A 先生には大変感謝しております。この本をこれからも大切に保管・再読していきたいと思えます。

2022.10.7 (金) 記

通信教育で学んで

平成 29 年 法学部法律学科卒業
吉川元仁

はじめまして。通信教育で学んだ日々を回想しつつ自己紹介致します。

17年前、県外から島田市川根町に移り住み歯科医院を開業しました。新しい生活に慣れて落ち着いた頃、何か勉強したいと思い文系への憧れと知人の勧めで法律を学ぶことにしました。しかし、入学した直後、妻が第一子を妊娠し、出産後はレポートもスクリーニングも全く出来なくなりました。子供が保育園の年長になった頃、勉強を再開してようやく卒業しました。法律を深く学ぶことはできませんでしたが、少しはリーガルマインドの感覚がわかったと思っています。

子供がまだ6ヶ月の頃、児童虐待の講演を聞きに行ったことがあります。痛ましい事例の写真などもあり、子供がかわいそうという内容でした。当時は、虐待する親が100%悪い！ひどい親から子供を救え！という報道が主でした。しかし、私家族は、核家族で赤ちゃんがいる親として、毎日夜中に泣いて起こされ疲労困憊だったので、虐待した親の気持ちがわかります。一方的に非難するばかりの報道も、講演も間違っていると思いました。自由で平等な社会を作るために様々な歴史があり、今に至ることを法律の勉強で学びましたが、格差が広がった弱肉強食の世の中に適応できない若く弱い親が追い詰められてしまいます。これらの事件は、こうして起こしてしまった事例だと思います。最近では育児休暇などが整いつつありますが、共働きのお母さん達は、依然として大変だと思います。50代の

立場としては何とかしないとイケないと思っています。

子供の成長と共に、三世代交流の地域活動を始めました。地域の人と休耕田で稲作をし、稲わらで



お正月のお飾りを作り、餅つきをしたり、百人一首大会をしたりと、川根での子育てを満喫しています。今は地域学校協働活動推進員を市の社会教育課から委嘱され、学校と地域をつなぐ役を仰せつかっています。世代間交流でみんながつながり、一緒にあんなことしたよね、と思い出を語りあえるような人と人のつながりが広がっていけば、安心して楽しく暮らせる地域になると思っています。

生活していて行政と関わることが多くなりました。仕事柄、医療保健や介護の課と、上記のごとく教育や保育の課と、また地域活動の中で公園課や協働課、地域総合課などと、市役所の人とお付き合いが多くなりました。そんな時、法律を学んだことが生きていると思います。

通信教育部校友会静岡支部の総会や懇親会などにまだ参加したことがないですが、コロナなどが落ち着いたら参加させていただこうと思っています。よろしくお願いたします。
2022.9.30 (金)





私の断捨離、SDGs、終活！？

平成21年 文理学部英文科卒
前田 浩一



古希を前に自分の生活を見直そうと、出会った本が「空腹こそ最強のクスリ」青木厚著(アスコム出版)という健康本だ。ノーベル賞を受賞したオートファジー研究から生まれた、医学的に正しい食事術=「16時間断食」というものであった。

1日3食は食べ過ぎ、更に飲み過ぎの自分の反省から食生活の見直しをした。本のように16時間空けることはできないが、自分の生活に合ったやり方をと、昼食抜きに挑戦した。それに30年以上続けているスポーツジム通いを活かし、昼ホットヨガ教室、水泳、自転車、ウォーキングの目標値を決め実行した。その結果、現役時代ずっと70kg台だった体重が理想体重に近い60kg前半の値になった。ダイエットつまり身体の断捨離で1年半が経過した。高めだった血圧も正常値に、体脂肪率も激減した。

次に革命的だったのはタブレットPC+ペンとの出会いだった。リンゴマークの製品だが、その書き心地の良さに驚いた。アナログ的な書くという行為とデジタル的な便利さが一緒になったものである。更に

「Good Notes 5」というノートアプリの優秀さだ。簡単な操作でページが増やせる。色ペン、マーカーペンも使えるし、書きミスも簡単に直せる。直線、図形が描けるし、写真も貼れる。他の紙文書もスキャンして取り込める。もう文房具を買うこともない。

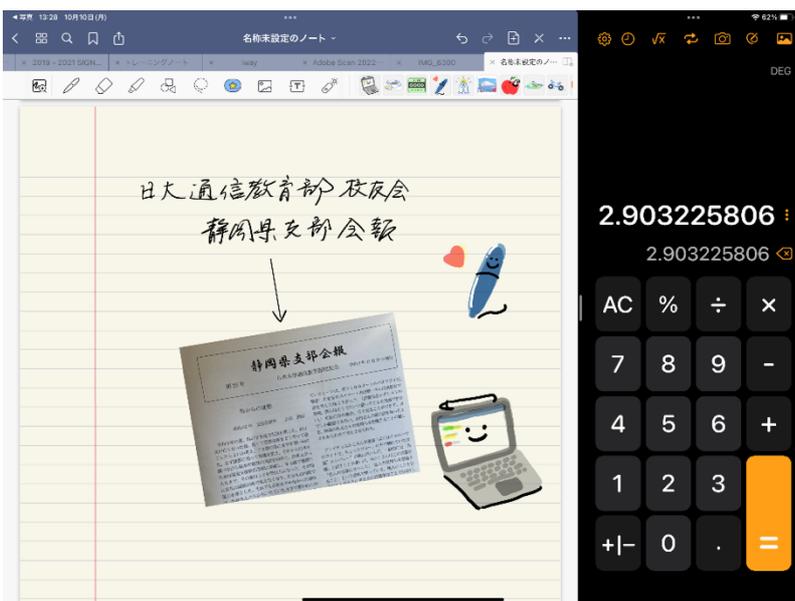
このタブレットPCは、画面2分割ができ、別々のアプリが使えるようになっている。自分の場合は、半分に電卓アプリ、半分にノートアプリというやり方で活用している。機械保守するパートの仕事をしているが、紙の点検用紙をやめ、このペンで書き、それをメールで送る方式に変えた。半分为今回値、半分为前回値とデータ比較している。

大学生の間では、勉強方法も変わってきた。半分为教科書、半分为ノートというやり方で、更に友人とシェアもしているという。入学祝いで1番欲しいものらしい。

これならペーパーレス、SDGsだと実践。ノート、ルーズリーフ、ファイル類を処分、可能な限り書類を電子化していった。安価なサブスク利用で、本、雑誌の購入を控え、古い本、CD、DVDも処分した。最終的には書棚を処分できた。

「77年周期」今年が戦後77年目、明治維新から戦後までが77年なので時代の節目と言われている。新時代に向けての「私の断捨離、SDGs」というとカッコいいが、実はいい終活であったようだ。

2022.10.10 (月) 記



俳句をつくってくれないか

昭和54年度 文理学部文学専攻（国文）卒
田中 陽

昨秋、会報への広告掲載をお願いしたところ、弁護士の後藤正治さんから「仲間が増えてよかったです。」といった添え書きのついた丁寧な原稿依頼状をいただいた。

お願いした広告は「俳句作品募集」のことです。僕は文理学部文学専攻（国文）の昭和54年度卒業生で、すでに米寿を超えた老人です。親父が大戦直後（昭和21年）に創刊した俳句誌の2代目代表という立場になり、雑誌の題名は「主流」です。発案者は、地元の一同人で、「主流」は郷土を流れる大井川の数条ある中の一番太い、勢いのある流れを指したもので、今のことばの意味する”主流”ということではないようだ。当時、僕は地元の商業学校に入学したばかりの少年（今の中学1年生）でした。創刊号の俳句も、読んで全然わからないということもなく、自分も俳句らしきものを書いて父に提出した。そのようなことから、第2号の「主流俳句」欄には、2句が掲載された。

それからというもの、毎月出来上がってくる雑誌に夢中で、いわゆる門前の小僧よろしく父の俳誌づくりの仕事を手伝ったり、家で行われる句会には参加して、歳のちがう俳句仲間も出来ていった。昭和41年に父が脳血管出血のため61歳で急死して、その頃は「同人」となっていた僕が自然と代表の立場にたつようになり、それからはいわゆる俳壇の人たちとも付き合うようになった。

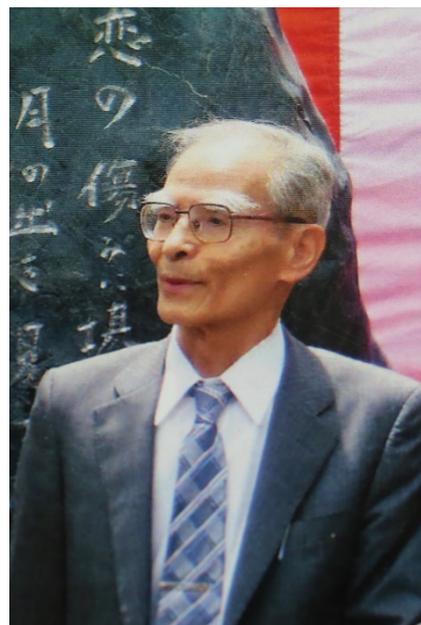
俳誌「主流」は昭和40年～50年代の盛況時には100名に近い同人を擁したものだったが、高齢化社会となるに従って同人の死去がつづき、僕自身も高齢者となって雑誌発行も月間から隔月刊となり、現在は年4回発行の季刊に衰退している。しかし、現在、戦禍中のウクライナや軍圧政下のミャンマーに事業を進めた30代の若い企業戦士も会員として俳句を送ってくれている。

一方、かつて日大の講堂で知り合ったI君は、今も「主流」同人として俳句をつくっている。君とのそもそもの出会いをここで一寸記してみる。

ある日の英語の授業の時、たまたま隣りに座った彼に僕は、持ち忘れた辞書を借りた。その前から彼の、先生に指されて読むリーダーの読みのすばらしさを知っていた。高校生のとき英語は好きな方だった僕だが、僕の舌を巻くほどのものだった。快く辞書を貸してくれた彼に一層の親しみが湧き、何やかや会話を交わし、その中で彼が故郷豊橋で文芸愛好グループの一員であることも知った。スクーリングを終えて帰郷後、お互いの誌を交換するうち、彼は「主流」へ入ってくれることになる。あれから40年余も経つが、I君と僕との交友は続いている。

冒頭に記した後藤さんの言葉どおり、愛する日大通信教育部卒業という共通の仲間の僕らだが、そのうえにI君のように“俳句仲間”ということになれば、僕の幸せは倍加する。

あなたも是非、俳句をつくってみてくださいませんか？



2022.10.12（水） 記

平成4年 法学部卒業
高田和彦

日本大学通信教育学部校友会の皆さま、こんにちは。

約10年位前に一度”醬（ひしお）について”という内容で寄稿文を書かせていただきましたが、今回は自分の経歴、趣味、思い出エピソード等を書かせていただきます。

経歴は、静岡県立御殿場南高等学校を卒業後、滑り止めで受けた東京都内の私立大学工学部に入学し4年後に卒業、就職しました。日本大学との縁はまだありませんでした。その後、資格試験等についていろいろ調べているうちに大学の通信教育課程を知りました。夜間大学（二部）等も検討して実際に入学試験を受験して英文科へも



入学しましたが、1年間在籍して退学しました。学士入学で都内の他の通信制大学も検討しましたが、スクーリングのために仕事を休むというのが大変であることを知り、結果として三島で地方スクーリングがある日本大学3年生への学士入学となりました。10月入学して、2年半かかって日本大学通信教育学部法律学科の卒業となりました。その後、1999年に日本大学大学院総合社会情報研究科が設立されたことを知り受験してみたところ運よく合格することができ、博士前期課程を2001年に修了しました。

了しました。

趣味ですが、もともと工学系なので機械系が得意です。銃砲射撃は現在も楽しんでおります。オートバイ等も昔はたくさん持っていました。今は、山歩き等に利用しています。最近、機械いじりは、納屋で週末、農機具の修理がメインになっています。銃砲で弾を撃つことからゴルフ等の他のスポーツは控えています。読書も好きです。分野的には、法律系・工学系・経済・歴史等の分野を2万時間以上位は読んだのではないかと思います。

思い出とエピソードですが、記憶に残っているエピソードとしてルーマニアの出来事を紹介します。海外は、アメリカ、メキシコ、フィリピン、中国、トルコ、ルーマニア、ドイツ、スイス、タイ等いろいろ行きました。

ルーマニアには3か月ほど滞在





しました。EU 加入前であったため大変物価が安く、夕食は毎日タクシーで高級レストランを探して、週末は親しくなったタクシーでドラキュラ城、ドナウデルタ地帯、ブルガリア等いろいろ行きました。タクシーは、500kmで1万円程度で、運転手の1月分の給料とのことでした。ある週末にブダペストの橋を見たくなりアメリカの国際免許を持っているルーマニア人にハンガリーに行こうと電話をして土曜日の朝を迎えました。ところが、なぜか朝ホテルで違うドライバーを紹介されて出発してしまいました。朝ルーマニア東部のホテルを出発してルーマニアを西へ500km横断し夕方ハンガリーとの国境に着きました。そこで、なんと運転手は国境を越えられないと言って帰ってしまいました。そのタクシー運転手は国境を越えられないのが分かっていたのに、料金欲しさに運転手をしたと思いました。そこから私は1人国境のパスポートコントロールへ入りました。バックパッカーと思われ2時間くらい取調べを受けました。その後、なんとか解放されて1人で歩いてハンガリーに入国しました。すると辺りは広大な草原で一本道があるだけで家の明かりもありません。”やばい、おわった”とこの時ほど思ったことはありません。ブダペストまで200km以上。夕暮れの中を真直ぐ歩いていくと道がY時に分かれていました。文字どおり運命の分れ道です。その道を感じて右に向かい、2時間程歩いたころバスターミナルにてタクシーを数台発見しましたが、東欧では驚くほど英語は通じません。通じるのはフランス語等です。英語が通じるタクシー運転手になんとか巡り合い、価格交渉をして150ユーロでブダペスト市街まで移動できました。翌日は、ドナウ川、ハプスブルクの王宮等を見てハンガリー国際空港から飛行機で移動。前日の薄情な運転手に電話してルーマニア空港まで迎えを指示しました。これがルーマニアでのある週末の1人旅エピソードです。他に、ドイツからアウトバーンでスイスに行った途中で寄ったリヒテンシュタイン国王城（ルパン三世カリオストロの城モデル）等の写真を添付します。スノで、ご覧ください。

日本大学に限りませんが、通信教育は学習意欲のある方にとって素晴らしい環境だと

思います。通学で一生趣味で学生をしていることは現実には困難であると思いますが、通信制ではこれが可能となると考えています。今後も日本大学通信教育部の発展を願います。



2022.9.24（土）記